

払うべきか払わざるべきか

サージ・カヒリ・キング (2001)

払うべきか、払わざるべきか、それが問題だ。サービスに対して金を請求するのが賢いのか、それとも無料で与えるのが賢明なのか。いやはや難題だ、難題だ！

多くのやり方においてとても奇妙な世の中ですが、その一つに教育と癒しに金を払うことに関する矛盾した態度があります。近代国家の大半の人々は「在来的」ヘルスケアや私立学校、個人教師には気前よく支払うのですが、どういう訳か「代替的」ヘルスケアや教育に対して何かを払うことには二の足を踏みます。

耳にする論拠の一つは「人は癒しに金を請求してはならない。」ということです。なぜか製薬会社、医者、看護師、心理学者、カイロプラクターやホメオパシー医師、催眠術療法士や他の多くはこれから除外されるのですが、ハーブやエネルギーによる治療者、霊的カウンセラー、手かざしヒーラーや他の多くはそうではありません。ある認識とは、「在来的」癒し手は懸命に働き、技術習得の為に金を支払わなければならなかったが、「代替的」ヒーラーは生まれつきだったり、天からもたらされたものだから、であり、それが両者の違いを正当化するようにです。

「代替的」ヒーラーも同様に懸命に働いて才能を伸ばし、技術を習得する為に同じくらいの金または、あるいは時間を費やさなくてはならなかった事を見出すには、たいした調査も必要ありません。ですから、論拠は成立しないのです。

教育に関しては、人々が「知識に金を支払わなくてはならないというのはあるべきではない。」、と言うのを私は耳にします。再び「在来的」教育はこれから除外されるようで、本やその他のメディアも同様です。しかし、「代替的」教育（私はこの範疇に、あらゆる内容のワークショップ、セミナー、私的な教師による講義を含みます）はそうではありません。このことに関し、正当性のかけらも私は見出したことはありません。

「伝統的」知識や癒しに関し、矛盾した態度の変形が表われています。私が述べようとする事は、「伝統的」教師から習い、多額な金儲けをし、その教師に等価の補償や利益の還元をしない「近代的」人物の倫理に反した搾取的実践に関与

しません。代わりに私がここで触れたいのは、多くの近代的人々、そして原住民の人々の間でさえ、「伝統的」知識や癒しは常に無償で与えられるという信念が存在することです。少し詳しく見てみましょう。

貨幣を物品やサービスと交換する単なる手段として用いるのは、人類が一種類以上存在していた頃から行ってきたことです。貨幣自体が多くの形態を経てきました。ある地域では今もなおそうです。私が西太平洋のヤップ島を訪れた時、花嫁の持参金には貝の貨幣が、不動産に輪形の貨幣¹が、そしてビールにはアメリカドルが使われているのを知りました。私が7年間暮らしたアフリカでは、他の物よりも金、鉄、コヤス貝が使われていました。多くの伝統的な社会では、物品やサービスと交換する代表的な方法は、物々交換か贈答です。

物々交換は等価で触れることの出来る物品や特定のサービスを、取引の交渉をしながら交換するやり方を基盤にしています。例えば私が陶工でああなたが農夫なら、何頭の山羊で何個の壺を買えるか（あるいは反対に）、をどちらの需要が大きいかによって決定します。もし私が教師でああなたが私の弟子になりたいのなら、あなたの家族が年何頭かの家畜を私にくれるか、何年かあなたが使用人として私に年季奉公するのです。これは例えばアフリカでは、とても普通に行われています。アフリカの内陸や海岸沿いに旅をした数年間全てにおいて、家族以外の者に何らかの交換なしに、伝統的な教授や癒しが施されたことはありませんでした。

贈答制度では交渉しないで、物品とサービスの交換が扱われるのが基本です。これは実際、今日多くのヒーラーやカウンセラーによって用いられている寄付制度に類似しています。アフリカでは、物品やサービスが交渉なしで提供される際にはたいてい贈答制度が実施されます。例えば、アフリカの村で、その子供たちに私がドライミルクや小麦を提供していたある女性が一度私を集まりに招待してくれました。そこでは私を讃えて踊り歌い、15個の卵を送呈してくれました。彼らが提供した事物の値と私が与えた食物とは等価ではありませんでしたが、贈答価値は同等でした。

数分前私はガソリンスタンドで車を受け取ってきましたが、点検の料金を請求しなかったので、そこでいくらかガソリンを入れました(たいてい私は他でガソリンをいれるのです)。それもやはり贈答制度によるものです。

古代のハワイ社会では、たいていの場合家族の延長制度である区によって組織され、そこでは贈答は交換の主要手段でした。典型的な区 (ahupua'a) は山地から海岸まで伸びていて、羽毛は量に関わらず魚の贈与に対し用いられました。

カウアイ島では、ネメフネ(Menehune)石工の仕事に対し、一人一匹づつ海老を支払った長（おさ）の物語があります。近代的な解釈では騙したと捉えられるでしょうが、元々の物語には労働者たちがその贈り物で動転したという記述はありません。

近代は古代とは時代が異なり、物々交換、または贈与は今もなされていますが、貨幣が多く交換において優勢を占めています。しかし、より重要なのは全ての社会にある種の交換が存在し続けている点です。家族においてさえ、知識や癒しが無償で与えられたら必要な場合には何かと交換する、暗黙の了解があるという事です。

さて私がどのように行っているかをお知らせしようと思います。他への手本ではなく、ある個人の解決策の一例です。

第一に、アロハ・インターナショナルでの私の教育（ワークショップ、著書、カウンセリング等）に対して、支払いを請求するとしても知識そのものに対し支払いを請求しません。たとえ異なる方法であっても、私が習得したのと同様、宇宙には知識が誰にでも習得すべく存在しています。私が支払いを請求するのは私が長年懸命に学び実践してきた教育技術に対してです。

幾人かの方々は私のワークショップに参加する金銭的余裕がないと感じるでしょうから、小冊子、記事、電子メールによる相談、ウェブサイト、ヒーリングサークル、講義のライブ中継、自主的な贈与としてのビデオにより、私たちは無償で豊富な情報を提供しています。誰も知されることなく過ぎ去ることはありませんが、私の特別な教育技術を集中的に習得する恩恵に浴したければ、支払わなくてはなりません。有難いことに、知識源である私のハワイの家族は、よく面倒を見て頂いています。

癒しの仕事に関しては、ちょっと変わったスタンスを取っています。第一に、カウンセリングと癒しを区別しています。私にとってカウンセリングとは、人々に自助の方法を教えることです。多くを無償でしますが、支払いを請求しても、問題はありません。

癒しに関しては、癒しの技術か能力を持っている人は誰でもそのサービスに対して、彼または彼女が望むものは何でも請求する権利があると私は考えます。しかし私個人は、遠隔また直接癒しを援助する事に対して支払いを請求しないと決めています。常に救急事態の為に、私の時間は最優先に用いられます。私の考え方としては、これは私の宇宙に対する贈り物だからです。人々が与えるお返しに寄付金は、アロハ・インターナショナルを助成しています。

最後の段落で私が述べたのは、私個人の方針で、アロハ・インターナショナルやアラカイ（指導者）の方針ではありません。実際には、アロハ・インターナショナルの方針は私の方針とかなり類似していますが、個々のアラカイはそれぞれ独自の方針を自由に展開することになっています。

ですから、支払いを請求すべきか、請求せざるべきか、あるいは払うべきか払わざるべきか、は選択次第なのです。これは自由意志と呼ばれるものです。それを私は信じています。

訳注1 原文では ‘wheel money’ です。

ヤップ島では大きな硬い石灰石や方解石を円形に削り、中央に穴をあけ、原始的な車輪のようにして、貨幣として用います。

翻訳：M. Hayashi (2005)